



問題提起

・公営住宅団地を取り巻く問題
1950年代後半から建設が続いた公営住宅団地は、ダイキックペン、ベランダなどを取り入れ、周辺環境は自然環境によって優れた生活空間を確保した。しかし一方で、単一用途住宅団地の弊害の多い暮らしを生み出し、現在は**高齢化、高齢者の増加、住居の高齢化**が問題となっている。

・老朽化
高度経済成長期に建てられた団地は、現在築年50年が経過し、建物、設備の老朽化の時期を迎えている。また、1960～70年代に建てられた団地は、エレベーターが設置されていないなどの多くのバリアフリー等の観点から大きな課題を抱えている。

・高齢化
現在、公営住宅に入居している世帯の状況は、高齢者のみが居住する世帯が約2割。そのうち高齢者世帯が半数以上を占めており、団地の高齢化が進んでいる。高齢者が多いため、若者との付き合いも少なく、団地的に活気がない。

・子どもの周辺環境の変化
現在の子どもを取り巻く周辺環境は昔に比べて大きく変化した。外で遊ぶ子どもも減少し、自然との付き合いの減少、地域との付き合いの減少が問題となっている。

・自然とのかかわりの減少
野球、ゲーム、子どもが一人で遊ぶような遊びがなくなった。家の中で遊ぶ子どもが増え、外で遊ぶ人、体を動かす機会が減少している。そのため、運動不足の子どもも、ストレスを感じやすい子どもが増えている。

・地域のかかわりの喪失化
団地建設の子どもは、まちのあちこちと遊ぶ遊び場、まちなかの中を駆け回っていた。またには常に何種類かの人が存在し、地域全体で子どもを見守る環境が形成されていた。しかし、現在の社会は、隣に住んでいても人の顔も知らないなど、地域コミュニティの喪失化が進んでいる。子どもの地域に受け入れられがなくなっていき、言葉も通じない外国人、地域が安全な場所から、危険な場所へ変化し、子供を外で遊ばせることに難儀する親が増えている。

新しい世代のかかわりが減少し、地域での交流の減少
↓
団地内の交流の減少

・子どもとのかかわり
自然とのかかわり
外を走り回る子ども
家にも住む子ども
地域の人とのかかわり

企画提案

公営住宅と児童施設の複合
老朽化が進んだ団地を、2層に達する良い敷地に建て替えて**新築複合**し、そこに、地域の子どものための**児童施設(保育園、児童館、遊戯室)**を併設し、子どもを育てる環境が形成される。子どもと住居に**関わりを持たせることで、団地生活者を見え、子どもを育てる環境が形成される。**また、広いオープンスペースや遊具を置くことで、遊びの少ない団地を子どもが自由に走り回り、遊びの場とすることも可能である。

子ども × 住民

子どもへのメリット
・遊び場の増加により、遊びの場が増えることで、親子が一緒に遊ぶ機会が増える。また、広いオープンスペースや遊具を置くことで、遊びの少ない団地を子どもが自由に走り回り、遊びの場とすることも可能である。

住民へのメリット
・子どもの入居により、高齢者ばかりで活気がなかった団地に、新しい人が生まれ、団地が活性化される。また、子どもが遊びに来ることで、住民同士の交流が増える。また、子どもが遊びに来ることで、住民同士の交流が増える。また、子どもが遊びに来ることで、住民同士の交流が増える。

町営団地住民によって子どもを見守る
建物、住民が子どもの遊び場を囲むことで、自然と子どもが見守られる空間が形成される。また、子どもと自然との関わりが深まることで、自然との関わりが深まる。また、子どもと自然との関わりが深まることで、自然との関わりが深まる。

住民と子どものかかわり
住民と子どものかかわりをもつことで、子どもと自然との関わりが深まる。また、子どもと自然との関わりが深まることで、自然との関わりが深まる。また、子どもと自然との関わりが深まることで、自然との関わりが深まる。

敷地説明

岐阜県不破郡垂井町垂井2355
準工業地域
敷地面積 約20,000㎡

アクセス
J1 垂井駅から徒歩3分
(徒歩距離: 約295m)

敷地特性
垂井町は緑豊かな山が町域の6割を占める自然豊かなまちであり、史的に緑豊かな177年の歴史に由来する伊弉山を愛し、敷地の東側には琵琶湖の第一級河川である越前川が流れる。

垂井町の現状問題
・町営住宅の老朽化
垂井町の近くには2つの町営住宅があり、ともに建設されてから約30年近く経ち、老朽化の時期を迎えている。また、建設当初からの住居が多く住居の高齢化が進んでいる。

垂井町の児童施設
岐阜県不破郡垂井町2466
建設年 築21年
住戸数16戸

近隣の児童施設
近隣の児童施設
岐阜県不破郡垂井町1166
建設年 築29年
住戸数41戸

・子どもための施設・スペースの少なさ
垂井町には、子どもの遊ぶための公園が少なく、子どもたちが外で遊ぶ機会を減少させている。子どもが利用できる施設は限られ、施設が行われる機会が少ないイベントは、週に一回程度と、子どもが利用しにくい状況である。

移住の子育てマップ
赤い点: 子どものいる子育て世代
青い点: 子育て世代がいない

1 児童館併設住宅団地

2 児童館併設住宅団地



